令和３(2021)年度 基盤研究（Ｓ）審査結果の所見

研究課題名	ポストコロナの教育格差研究：世界的課題の解明とオンラインでの調査・実験手法の革新
研究代表者	赤林　英夫 (慶應義塾大学・経済学部・教授) ※令和３(2021)年７月末現在
研究期間	令和３(2021)年度～令和７(2025)年度
科学研究費委員会審査･評価第二部会における所見	【課題の概要】 新型コロナウイルス感染症による社会のオンライン化に伴い、家庭環境が子供に与える影響の強まり、それを防ぐための新たな教育政策の構想など、ポストコロナの教育格差に関する課題は世界に共通する。 本研究は、ポストコロナの教育格差に関する課題解決の道筋を確立することを目的としている。具体的には、統一的に構築された子供の全国サンプルを複数の研究課題向けに用意するとともに、伝統的手法を見直し、親子を対象とした調査や実験研究をオンラインで実施する手法を考案する。加えて、当該手法を通じて子供の活動を記録、先端技術を利用したデータ処理や外部データとの接合など、社会のオンライン化を生かした研究技法の開発を行う。 【学術的意義、期待される研究成果等】 ポストコロナの教育格差がもたらす課題について、解決する道筋を子供の全国サンプルに対する調査や実験、親子を対象とした調査や実験をオンラインで実施し、その方法を確立しようとする研究の学術的意義、社会的意義は大きい。子供を対象としたオンライン実験という挑戦的な取組も計画されており、データが集まれば、興味深い研究成果が期待される。